

# なんでやねん

発行責任者 金 藤 郎

No. 4 5

## ウンチこそ

## もっとも身近な金肥だった 先祖の苦勞を讀みとろう

### ◎ 江戸市中の糞尿代

江戸時代の江戸の市中で、人糞尿を取り扱う仲買商人まで現れている(尾崎でも同様)。具体的な価格については、明らかにできるほど資料が発見されていないが、当時の江戸市中の総人糞尿代は、米や野菜類を含め、金額にして年間49000余両であった。

#### 下尿の等級

|      |                 |
|------|-----------------|
| 最上等品 | 勤番 (大名屋敷勤番者のもの) |
| 上等品  | 辻肥 (市中公衆便所のもの)  |
| 中等品  | 町肥 (ふつつ町家のもの)   |
| 下等品  | タレコミ (尿の多いもの)   |
| 最下等品 | (囚獄、留置場のもの)     |

(以上、楠本正康『こやしと便所の生活史』ドメス出版pp.72-73より)

### ◎ コヤシ代と大阪周辺の農民

寛永11年(1634年)の大坂・西成郡江口村の書付によれば、尿尿代は1荷(4斗)=25文であった。

「大坂周辺の農家で、生産支出の5割以上がコヤシ代であり、そのコヤシ代の中で尿尿代は20~80パーセントを占めることが多い。」

(以上、本間 都「尿尿はどう扱われて来たか」『日本トイレ博物誌』図書出版社 p.122より)

### ◎ 元禄期以降、大阪市中の下尿をくみ取りに出かけていた尾崎市域の村々

椎堂 田能 富田 穴太 法界寺 戸之内 下食満 田中 小中島 若王寺  
 善法寺 額田 高田 次屋 常光寺 今福 潮江 東長洲 中長洲 東難波  
 西難波 竹谷新田 初島新田 尾浜 栗山 大西 三反田 七ツ松 浜田  
 東新田 西新田 道意新田

(下線部は、校区内の江戸時代の村)

(尾崎市『尾崎市史』第2巻 p.570)

◎ 享保のころ、尾崎城下の下尿のくみ取りをしていた尾崎市内の村

神崎 西川 今福  
 杭瀬 梶ガ島  
 中長洲 西長洲  
 東長洲 大物  
 東難波 西難波  
 竹谷新田 別所 塚口 東富松 西富松 尾浜 上之島  
 栗山 大西 三反田 時友 武庫庄 今北 浜田 東大島  
 西大島 東新田 西新田 道意新田



◎ 伊丹の町の下尿のくみ取りをしていた尾崎市内の村(幕末期)

田能 穴太 法界寺 猪名寺 中食満 下食満 清水 瓦宮  
 万多羅寺 若王寺 (尾崎市『尾崎市史』第2巻p.573より)

◎ 享保のころの尾崎城下町の下尿代

「尿の間屋」が、民家に支払った下尿の代金  
 城下町東町の7軒分(1年分) = 米3石

(尾崎市『尾崎市史』第2巻 p.572)

※ 糞尿の「こやし」としての利用法の歴史については、スチュアート・ヘンリー著『はばかりながら「トイレと文化」考』文春文庫 1993.6.10

p.228~  
 が、読みや  
 すくおもしろい。 ※ ※

